

令和4年度 江戸川区立船堀小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	よく考えすすんで学ぶ子 思いやりがある心豊かな子 さいごまでやりぬく子 たくましくじょうぶな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子供が学びを通し、互いにかかわり合いながら思いを伝え合う学校 子供、保護者、地域の思いに寄り添った導きのできる学校 教職員同士が互いの思いを伝え合い、新たな教育の創造ができる学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞各種学力調査において国、都の正答率を大きく上回る結果となった。また、授業改善に向けた研究授業を年間8回実施し、「主体的、対話的で深い学び」の視点による授業改善を日常的に行った。 コロナ禍であっても各種専門家を招き、関心を高める授業を展開することができた。 ＜課題＞本を活用して探究的活動を行う「読書科」の推進については課題を残した。計画的に読書科推進を行い、問題解決力の育成を行う必要がある。 体力の向上に関しては、体力テストの結果では都、国の平均を下回るものが多い。		

教育委員会 重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた 改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	新たな時代に求められる学力(3つの資質・能力)をバランスよく身に付け、主体的、対話的に自ら深い学びを実現していく児童の育成	①主体的、協働的に学習に取り組む態度の育成 ②放課後補習事業(週1回、2～6年)の活用 ③校内研究を年間8回実施し、「主体的な学び」をつくる授業改善に組織的に取り組む。 ④ICT機器の活用による授業改善・家庭学習の充実	①東京ベーシックドリル診断テストにおいて全学年で正答率85％以上を達成する。加えてCD層の削減を図る。 ②児童意識調査「友達のとえと自分のとえを比べて自分のとえを深めている」肯定率84.5％ 「自分からすすんで学習している」90％の数値向上 ③ICT機器の授業・家庭学習での利用率向上 ④全国学力・学習状況調査において正答率を国、都平均を上回ることを目指す。	B	B	学力調査の結果は全国平均、都平均を大きく上回ってきた。また、授業改善についても校内研究、OJT研修を通して方策を共有している。ICT機器の活用状況については学年によってばらつきがありより一層の活用が必要である。また、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けてはさらに全教員で意識を高めていく必要がある。	A	校内研究協議会をさらに活性化し、授業改善に向けた教員の意識をさらに向上させていく。補習教室については前期との入れ替えも適切に行い、基礎的な内容の定着に努める。学力向上推進プランに従い、日常的な指導を改善していく。ICT機器の活用について、支援員との連携をさらに密にし、意義ある活用機会を増やしていく。
	体力の向上	体育の授業改善及び運動遊びの計画的な実施により、運動に親しむ子供を育てる。	①年間35回以上の中休みを活用した「運動遊びの時間」クラスマイルタイムを実施し、すすんで運動遊びに親しめる児童を育成する。加えてなわ跳び週間、持久走大会等に取り組む運動機会を確保する。 ②各種運動領域の特性に応じた「楽しい体育」の授業を行い、3つの資質・能力のバランスが取れた学力を体育科学習を通して身に付ける。	①児童意識調査「休み時間にすすんで運動遊びをしている。」肯定的回答率86.1％の数値向上 ②体力テスト6月実施における体力合計点、全国平均以上を全学年で達成を目指す。	B	B	体力テストの結果では全国平均以上を達成できなかった。今後、さらに運動遊びを日常化していく手だてを打つとともに、体育科授業改善をすすめていく必要がある。	B	体育授業での「楽しさ」をより一層意識した授業改善を行う。学級での集団遊びの機会をさらに充実させ、運動遊びの楽しさを継続して味わえる機会をもつ。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①朝読書(15分)＋1単位時間(45分)により年間3・5時間の授業時数を実施する。 ②読書科、図書館活用に関わる研修会、授業公開の実施により、指導法の理解を深める。 ③読書科ノートを活用した授業実践を積み重ね、学校公開時に保護者、地域に授業を公開する。(学年1回) ④学校図書館を積極的に活用する。	①児童意識調査 「本を使って疑問を調べている」79.5％ 「目的に応じて本を読もうとしている」80.6％ 「調べたことをまとめたり、伝えようとしていたり」81.5％ 全ての項目で数値向上を図る。	B	B	読書科の授業研究機会を設定し、研修を行ったことで学年での読書科の授業が深まった。一方、子供たちの意識は他の項目と比較して低い傾向がある。さらに指導を充実させる必要がある。	A	学校公開で保護者に読書科の授業公開をしたことは大変大きな意味がある。今後も継続していくとともに、子供たちの読書科の作品に先生方の指導の充実があらがえる。図書館サテライト事業が始まったことをうまく教育活動に活かさないか。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・多様な価値観や立場を尊重し、理解し合える子供の育成を図る。	①個に応じた指導の充実を図るため、各学年、特別支援教育コーディネーター、専門員、SC等が連携し特別支援委員会を定期開催する。 ②エンカレッジルームを適切に運用する。 ③ユニバーサルデザインの授業実践を推進する。 ④学年、教科の実態に応じ積極的に交流学習を推進する。 ⑤なかよし班活動を充実させ多様な関わり合いを大切にした教育活動を行う。	①児童意識調査「友達と仲良くかわらう」としている。 肯定的回答95.1％の向上 ②巡回指導学級児童の満足度調査90％以上 ③定期的な特別支援委員会の開催と情報共有を行う。	A	A	特別支援教育コーディネーターを中心に定期的に適切な対応ができています。また、情報の共有も順調に図れている。また、子供の他者理解の気持ちをさらに育成していく、交流学習の在り方については検討が必要である。	A	なかよし班フェスタを充実させ、異学年交流の機会を生かして多様性の理解を進める。特別支援学級と通常学級の交流学習の在り方についてはさらに改善できるように学校全体で協議を行う。
	子どもたちの健全育成	・児童理解の充実を図り、誰もが安心して過ごせる学校づくりを行う。 ・不登校への対応を確に行い状況の改善に取り組む。	①hyperQ-Uテストを実施し、各学級の児童の意識を明確に把握し、児童理解に結び付ける。中でも要支援群に位置する児童への個別の対応を充実させる。 ②ふれあい月間における児童アンケートの実施と活用 ③いじめの状態に応じたいじめ校内委員会の開催	①いじめ問題の早期発見を行い、解決率を100％とする。 ②不登校状況の具体的な改善 (登校日数の増加、面談機会の増加、放課後登校の増加等) ③いじめの状態に応じたいじめ校内委員会の開催	A	B	軽微なケースのいじめは早期発見をした。加えて適切に指導助言を行い、問題解決に結びついている。Q-Uテストの結果については分析を行い、保護者配布の資料についての説明責任を果たせるよう準備を進める。不登校対策委員会を定期的に開催し、ケース協議を重ねた。SSWの活用とも相まって、欠席日数が減少した児童も複数出始めた。	A	関係機関との連携による不登校対策は継続していただきたい。全ての子供たちに居場所があるように家庭とも連携をとっていただきたい。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	①SSS及び学年アシスタントの導入と効果的な活用 ②一斉定時運動日(年間12回)の実施 ③ペーパーレス化の推進	①月あたりの時間外勤務45時間以内の全員達成 ②ストレスチェック結果におけるストレス状態の減少(前年度比)	A	A	月45時間以上の時間外勤務状態は散見されるが、前年度と比較するとかなりの時間削減につながっている。学校からの手紙類を電子化したことで児童の指導に充てる時間が確保できる。ストレスチェックの結果は大幅に改善した。	A	働き方改革をより一層進め、子供たちの指導に先生方が向き合える時間をしっかりと確保していただきたい。人的措置についての運営努力がよく感じられる。
	清掃活動の実施	自ら美しい環境を作ろうとする意識を育てるため校内清掃活動を復活させる。	①学校全員で取り組む清掃活動の導入	①週2回の清掃活動を実施する。	A	A	9月より生活時程を変更し、清掃の時間を確保した。現在週2回の清掃を実施している。どの学級の児童も熱心に清掃に取り組む様子が見られる。	A	コロナ禍にあつて控えていたことをどのようなタイミングで再開するかを今後も検討していただきたい。教育的価値のあるものは再開する方向でいってはどうか。